

「中学校図書館の可能性」

霧島市立横川中学校 学校司書 池田 幹子

【1. 学校概要と学校図書館について】

- ・生徒数：75名
- ・学級数：5(うち特別支援学級2)
- ・座席数：40席
- ・朝読書：週3回
- ・蔵書数：9,200冊
- ・年間平均貸出冊数：23.1冊



【2. 一冊でも多くの本を生徒に！】

生徒と職員、地域も巻き込んで身近に感じることができる図書館にしたい。



「横川中学校ポータルライブラリー」

生徒はタブレット端末からいつでも図書館の情報を見ることができ、学校ホームページから保護者や地域の方も見ることができる。

「カーリル学校図書館支援システム」を使った蔵書検索

カーリル株式会社の学校支援プログラムを使った蔵書検索で、生徒だけでなく保護者や地域の方も学校の本を探して予約することができる。



この取組によって一冊でも多くの本を生徒へまた保護者そして地域へ届ける。

【3. 子どもの読書への関心を高める取組】

(1) 読書会の開催

- ① 図書部を中心に1～2か月に1回読書会を開催している。「自分のおすすめの本」や「テーマで選ぶ本」について語り合うことで、より深い読書ができる。
- ② 今後は生徒の読み聞かせ会(朗読会)の開催を検討している。

(2) ミニビブリオバトルの開催(ビブリオバトル教室)

ゲーム感覚でプレゼンテーション能力を育て、楽しみながら本に、そして本を通して人に関心を持つことを目指す。ミニビブリオバトル開催前に講師を招いてビブリオバトル教室を行う(小学校とオンライン授業)。

【4. 地域の特性を生かした取組】

霧島市と岐阜県海津市は、姉妹都市盟約を締結している。



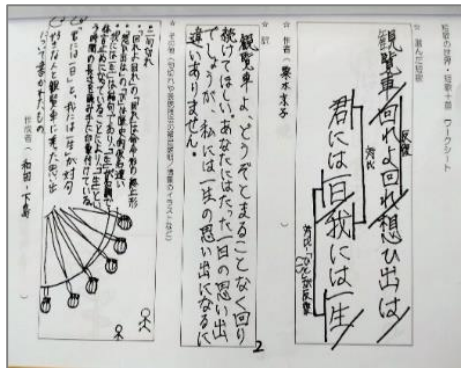
「命の教育の日」に霧島市と薩摩義士とのつながりを図書部が放送し、本の紹介をする。海津市の治水神社の松ぼっくりから種子を採取し育てた「千本松原2世松」が贈呈され、その松が学校の正門近くに植樹された。



【5. 授業などへの支援】

(1) 2年 短歌の調べ学習

「短歌 12 首」の短歌・歌人・短歌の技法などについて本とインターネットで調べてワークシートを完成させる。



(2) 新聞の活用

ネットのニュースの情報だけでなく、新聞から情報を得る。



新聞のスクラップを作って掲示をしたり、図書館の入り口に新聞を置いたりして、生徒がいつでも読めるようにし、身の回りに起こっている問題に関心を持ってもらえるようにしている。



【6. 課題】

「これからの一生を生きていくうえで、何かわからないことがあったら、図書館の司書さんに尋ねる。司書さんはきっと、本を探す相談にのってくれる、と自然に思うことでしょう。**それは生きるうえでの大きな力になります。**」

『生きるための図書館』 竹内 葱 岩波書店 より

学校図書館は、学びを広げ深める場所。生徒が司書と図書館を使い生きていく方法を学ぶことへ繋げていけるように学校図書館の環境を整えたい。